

3 8月7日視察2日目（日本時間：8月8日）

(1) コパカバーナ地区調査¹¹ 視察時間：9：00～12：00

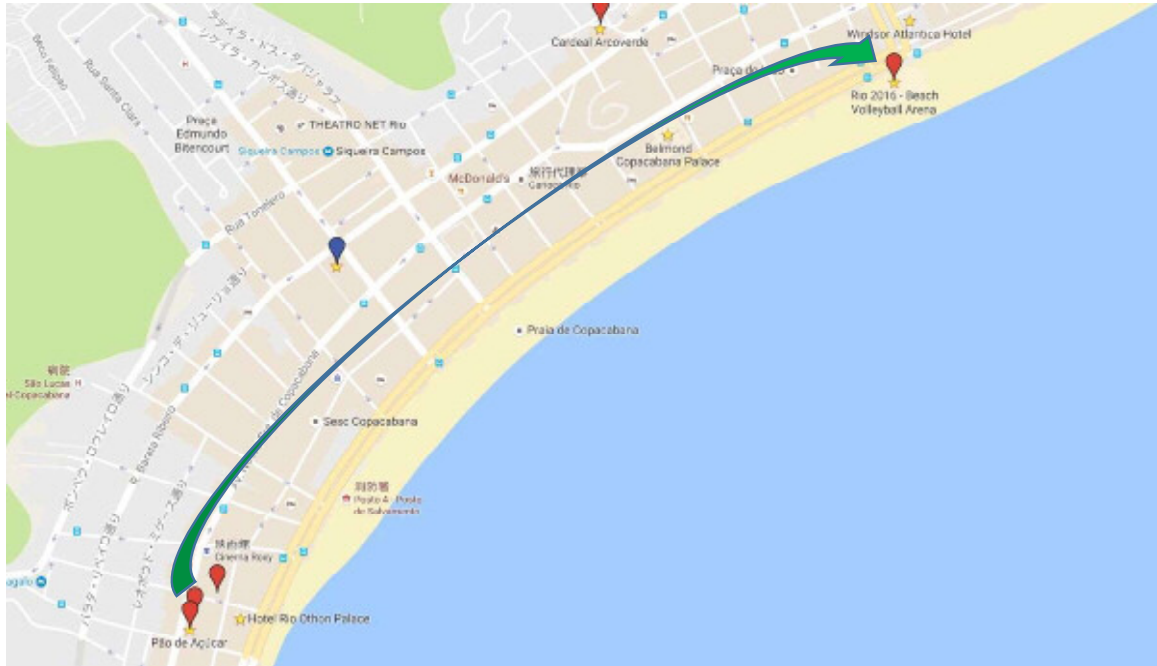


図 2-8 宿泊ホテルとビーチバレー会場の位置関係 Google Map より筆者作成



写真 2-100 ビーチバレー競技場の外観 筆者撮影



写真 2-101 競技場の構造 筆者撮影

¹¹会場内の標識・施設等を調査、大会ボランティアインタビュー（Copacabana）＜ビーチバレーボール＞競技会場・競技進行・観客導線等視察調査



写真 2-102 ボランティアと共に 視察団撮影



写真 2-103 市民ボランティア 筆者撮影

8:00 よりホテルロビーにて打ち合わせ及び行動確認を行い 8:30 バス移動（図 2-8）でコパカバーナ沿道の幹線道路で下車して徒歩にて会場入口まで視察を行った。会場の外からでも熱気が伝わってくる競技場（写真 2-100）だったが、その構造は単管パイプを無数に組み合わせた造りで（写真 2-101）安全性の問題をクリアしているか、いささか疑問が残る。午前中の早い時間にも関わらず多くの人々で賑わい、どこことなく笑顔があふれていた。視察団は午前中、会場周辺や会場内の視察を行い、午後からは **Japan House reception** 出席のため二隊¹²に分かれ、それぞれの課せられた任務を遂行した。

会場ゲート前での大会ボランティア（写真 2-102）にヒアリングを行った。ボランティアの約 80 パーセントがリオ市及びブラジル国内であると。ボランティアが集まらないとも答えた。紺の服は市民ボランティア（写真 2-103）で、主に会場までの案内看板を掲げていた。東京大会におけるボランティアの確保はできるのであろうか危惧するところである。品川区は競技大会に向け市民ボランティアの募集や育成を行うことも必要である。

¹²一隊は会場周辺の調査ではコパカバーナ地区の多言語、バリアフリー、Wi-Fi 対応、地元への滞留策、PR 策等観察調査、大会ボランティアインタビュー等を行った。昼食をはさみ 14:30 まで行い合流地点の宿泊ホテルへ移動した。

セキュリティーゲート（写真 2-104）を通過して入場して目に飛び込んできたのは、公式ショップには行列もなく（写真 2-105）、スポンサーサイドの飲料販売店で行列（写真 2-106）ができ、ペットボトルのキャップは回収され本体のみもしくはプラカップに入れて飲む（写真 2-107）。これは凶器にならないような配慮、もしくはゴミにならないようになるのか。一方で水道水を持参した入れ物に入れるための長蛇の列（写真 2-108）ができていた。ブラジルの水道水は良いとは言えないのに疑問は残る。どちらにしても日本の夏は蒸し暑く路面等からの照り返しもあり、さらに品川区における都市型観光である社寺仏閣、商店街、旧東海道等のまち歩きを競技大会開催時の一つの目玉とするのであれば、「水処」「背負い水」のような給水スポットを会場周辺等に設置することはゲストの満足度につながると考え、設置検討を行う必要がある。背負い水は筆者の創造でプロ野球の球場で生ビールを背負っている売り子のイメージで、それを水に変えて会場周辺を行きかうゲストに紙コップ等を渡し注いでいく。このことは、水道の水を汲むための長蛇の列を見ての発想である。さらに言うのであれば、会場周辺で打ち水を行うことも必要であろう。会場内は午前中の早い時間もあって観戦客（写真 2-110）はまばらであったが、時間がたつにつれ増えてきた。観戦したのは女子ビーチバレーのブラジル対ロシア。予選であってもブラジル戦だけあって盛り上がりは最高潮に達していた。（写真 2-111）試合が中断した時には、間髪入れずに音楽を流し、試合を解説するディスクジョッキーの活躍には目を見張るものがあった。



写真 2-104 セキュリティーゲート 筆者撮影



写真 2-105 公式ショップ 筆者撮影



写真 2-106 飲料販売店の行列 筆者撮影



写真 2-107 購入した水 筆者撮影



写真 2-108 水道水に並ぶ列 筆者撮影



写真 2-109 水道水 筆者撮影



写真 2-110 早い時間の会場の様子 筆者撮影

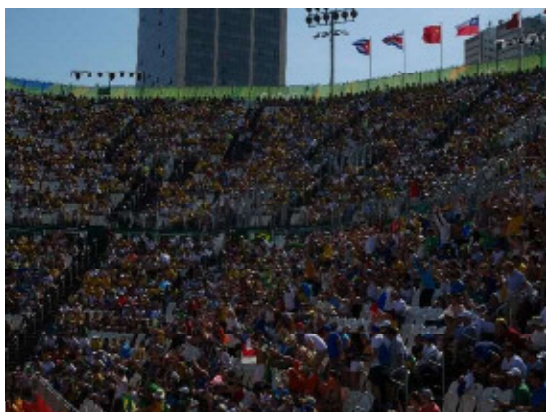


写真 2-111 熱気溢れる会場 筆者撮影



写真 2-112 会場内のサイン 筆者撮影

会場内のトイレは思った通り男性も女性も列を作っていた。(写真 2-113) 会場敷地内にはサイン表示 (写真 2-112) がありトイレ等の表示もあり分かりやすくなっていた。一方で列には偏りが見られ全く並ばずに (写真 2-114) 入れる場所もあった。満席の状態ですら約 12,000 人を収容できる競技場にしてはトイレの数が伴っていないように感じる。適切なトイレの配置や数を増やすことは必要と考える。品川区においても競技大会開催前後には会場周辺とあわせて、ターミナル駅、最寄り駅周辺に仮設トイレの設置は最低限行うべきである。前述した市内の設置されている仮設トイレ (写真 2-54) に比べ競技会場に設置されているほうが衛生的であることを付け加える。尚、会場内や会場付近の統一されたサインはポルトガル語と英語表記で多言語には程遠い。多言語がサービス (おもてなし) の一環であれば別であるが、最低限の表記をクリアすれば多言語にする必要がないのでは。



写真 2-113 列を作るトイレ 筆者撮影



写真 2-114 並ばずには入れるトイレ 筆者撮影



写真 2-115 競技場の警備 筆者撮影



写真 2-116 競技場周辺の警備 筆者撮影



図 2-9 JTB スポーツ観戦マップより筆者作成

会場が位置するコパカバーナ地区には治安不安定地域(図 2-9 赤丸)が数か所ある。そんな中、会場内(写真 2-115)や会場周辺の交差点等(写真 2-116)には自動小銃を持った軍が警備にあっていた。このことによりゲストには一つの安心感が芽生える。しかし、その中でも殺人こそないものの窃盗や強盗、スキミング、置き等が多発していた。その安心感を付け狙う集団等もある。安心・安全を売りにする東京大会でも否定できないものである。

(2) Japan House Reception に出席¹³ 視察時間：13：45～15：45



図 2-10 ビーチバレー会場と Japan House の位置関係 Google Map より筆者作成



写真 2-117 ファベベラ バス車内より筆者撮影



写真 2-118 フランス House 筆者撮影

Japan House Reception には文化スポーツ振興部長、オリンピック・パラリンピック準備課長、筆者が出席した。12:00 からの移動(図 2-10)の後、交通の都合上レセプションが終了した直後に会場入りした。道中では丘陵部に密集した居住区(2-117)もあり、その付近には乗馬クラブを利用したフランス共和国のハウスがあった。(写真 2-118)

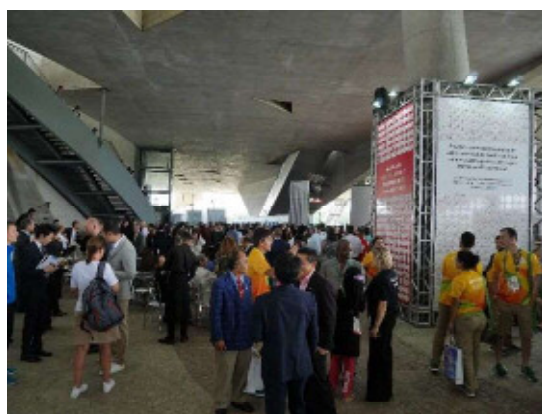


写真 2-119 レセプション後の様子 筆者撮影

¹³ ニッケイ新聞社主と意見交換を含む



写真 2-120 名刺交換の様子 筆者撮影



写真 2-121 名刺交換の様子 筆者撮影



写真 2-122 取材を受ける視察団 筆者撮影



写真 2-123 取材を受ける視察団 筆者撮影



写真 2-124 両国国会議員と 筆者撮影



写真 2-125 視察団とラウル社主 視察団撮影

当初は招待者のみであったが、私たち区議会議員も会場に入ることが出来た。レセプション後の会場は関係者で混み合い熱気に包まれていた。(写真 2-119) 品川区職員は精力的に名刺交換(写真 2-120,2-121)を行い多くの関係者に品川区をPRした。世界から見ると小さな一つの行政区ではあるがアグレッシブな動きに敬服する。レセプションには丸川珠代大臣(東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当)(写真 2-124)も出席していた。

筆者はレセプションに招待されているニッケイ新聞の高木ラウル社主とのご縁を頂き名刺交換(写真 2-125)をすることが出来た。ラウル氏からはリオデジャネイロ州日伯文化体育連盟理事長の鹿田明義氏、サンタクルース病院理事長の石川レナット氏(写真 2-126,)、ブラジル国会議員の西森ルイス氏をご紹介頂いた。特にサンパウロに拠点を置くサンタクルース病院では医療サポートのフリーダイアルを設置しオリンピック・パラリンピック開催期間中の8月2日から9月20日まで24時間体制で対応を行い、8月2日～21日、9月7日～18日までではリオデジャネイロに医療チームが滞在した。(名刺 2-1,2-2)選手や観戦客、観光客の医療的緊急時に備え万全の態勢を組んだ。品川区も各国のゲストが安心して滞在することが出来るように医師会、歯科医師会等との連携はもとより地域医療を支える個々のクリニック等と幅広い連携体制を構築することを推進するべきである。

尚、前日に Japan House の下見を行っているため詳細は割愛する。最後にニッケイ新聞編集局報道部記者の小倉氏より筆者と理事者は取材を受けた。(写真 2-122,2-123) 8月25日付のニッケイ新聞(新聞 2-1)に掲載された。



写真 2-126 石川レナット氏と 視察団撮影



名刺 2-1 筆者名刺交換 表



写真 2-2 集合写真 筆者名刺交換 裏

ごりんき こうやま ろくろう

五輪機に香山六郎の



聖市内のグッセマニ基地で香山六郎の製鉄りをした香山聖孝さんと友人撮影

香山六郎の父・俊久は明治時代に熊本県の地方紙・不知火新聞(熊本日日新聞の前身の一つ)の社主として知られる言論人だ。子供は男が2人、女が4人。長男が俊孝さんの祖父・俊雄(1880-1958年)、次男が六郎(1886-1967年)だった。両親とも早く亡くなった。六郎は父方の伯父に引き取られ育てられた。兄弟が思春期を過ぎたのは日清・日露戦争の時代であり、伯父に「新天地にいけ」と諭されて育ったこともあり、俊雄は1904年に台湾に渡り、六郎は翌年丸で1908年に渡伯した。その後、兄弟は手紙のやり取りだけで、六郎は生前一度も帰国しなかった。俊雄は台湾で家を50軒ほども所有し、住居宅業を営んで成功したが、終戦と共に全財産を失い、身一つで本土に引き揚げた。俊孝さんは「祖父が死ぬ前の3年間一緒に暮らしました。引き揚げた直後、一文無しで食べ物をもらい、一番苦しい時に、六郎さんがブラジルから物資を送って助けてくれた。六郎さんには感謝している。いつか報謝したい」と言っていました。だから、いつかその願いを叶えたいとずっと思っていました。

たのですと思ひ出す。六郎は、同郷で皇國青年会の上級顧問を手伝って第1回移民と共に渡伯し、1921年に聖州新聞を創刊。常に移民の陣に立った言論を放言したが、41年7月30日、他邦子紙と共にワイルガス独裁政権から脱却の憂き目にあった。戦後も「移民40年史」を編著するなど執筆活動を続けた。俊雄の血筋からは今降初めて渡伯。俊孝さんは「祖父(俊雄)には4人子供がいますが、長男は師範学校、残り3人は聖大です。私も4人兄弟で全日大を出た。後子



サントス強制立ち退き

聖市、リオで冥

ブラジル法務省アネス(チア選問)「Sean da チア委員会が呼びかけた。独裁政権時代の人権問題を振り返る「アネス」各地で開進行事が実施

「おいで下さい品川へ」
区議が東京五輪へ誘致活動

「リオ発」4年後の東京五輪を見据え、品川区議会議員のいながわ尚武(55歳)が、品川区議会議長(河野)氏を6月9日、リオを訪れた。品川区の存続や観光客の手配を目的とし、東京都市圏23区では唯一のリオ来訪団となった。

品川区内は東京五輪時に、ビーチバレーやホッケー、フラインドサッカーの会場予定地となっており、ブラジル領事館(五反田)がある緑もあつて実現したいという。5人の行政関係者を合わせ、視察団は7人で構成された。

滞在中は、五輪に際しての文化イベントの視察として、カーザ・ブラジルなどを訪れた。競技場としてはビーチバレーの会場を訪れ、助産客の声を聞くなど情報収集。伯国内のフェイスブック運営代表者らとも意見交換し、趣意を伝えた。手配などについて助言を得たい



や敵がいずれとも交流し、7日にはバーハ地区の日本ハウスで7日、見川大臣(中)と面会した(左)。いながわ尚武(右)と面会した(左)。いながわ尚武(右)と面会した(左)。

品川区内は東京五輪時に、ビーチバレーやホッケー、フラインドサッカーの会場予定地となっており、ブラジル領事館(五反田)がある緑もあつて実現したいという。5人の行政関係者を合わせ、視察団は7人で構成された。

滞在中は、五輪に際しての文化イベントの視察として、カーザ・ブラジルなどを訪れた。競技場としてはビーチバレーの会場を訪れ、助産客の声を聞くなど情報収集。伯国内のフェイスブック運営代表者らとも意見交換し、趣意を伝えた。手配などについて助言を得たい

(3) British House 視察¹⁴ 視察時間：18：00～19：40

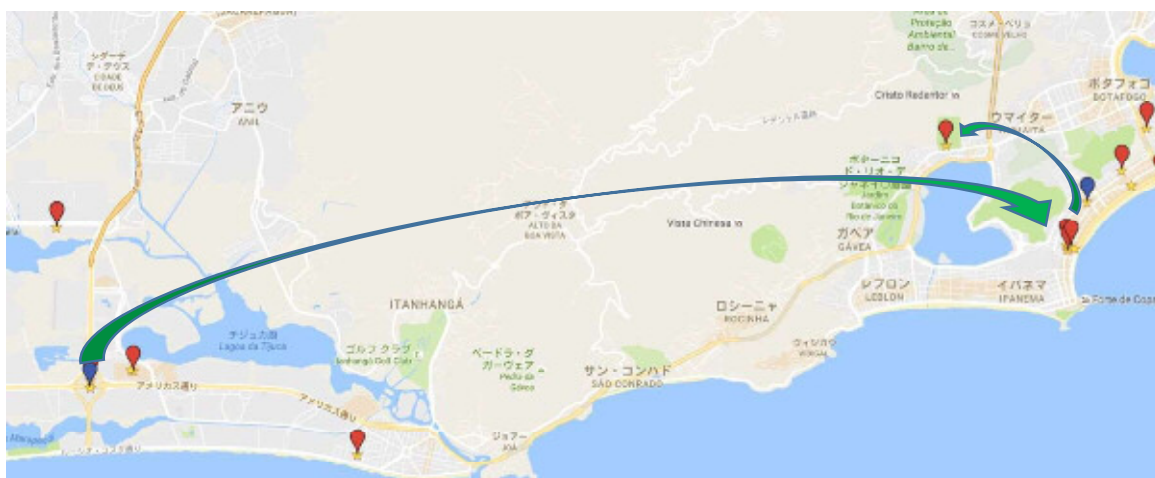


図 2-5 Japan House と宿泊 Hotel、British House の位置関係 Google Map より筆者作成

Japan House を後に視察団は移動（図 2-5）（15：45～16：45）。別動隊と宿泊ホテルで合流し British House へ向かった。（16：45～18：00）ラージュ公園内にある美術学校¹⁵を使用した British House はイギリスの名に相応しい建築様式であり、小雨の降る中、外観こそ把握できなかったが、ライトアップにより建物を何倍にも美しく立派に演出（写真 2-127）されていた。この学校は公式な連邦機関の保護のもと重要な建築物とされている。イギリスは競技大会開催の約 2 年前より交渉を行ったと聞く。（写真 2-128）



写真 2-127 正面入口 筆者撮影



写真 2-128 ヒアリングする視察団 筆者撮

2016Rio も閉会したが、既にその誘致活動は始まっている。多くの国やスポンサーサイドがこうした House を設置しなくてはならない中で東京大会は、限られたスペースを有効利用していかなくてはならない。こ

¹⁴ ロンドン市関係者ヒアリング・調査

¹⁵ ラージュ公園（Parque Lage）内にある Escola de Artes Visuais do Parque Lage を使用。通常はビジュアルアートの学校でアーティストや研究者、芸術家を目指した学校

のことは品川区でも例外ではない。今回の視察を踏まえて早急にHouse誘致を行うべきである。しかし、行政だけでは交渉の糸口が見つからないと考えるので民間企業（広告代理店等）との連携は必要不可欠である。品川区は都市型観光において類まれな資源を持ち合わせている。こうした中で、あえて「Shinagawa House」を設置することで、今後の外国人ゲストへのおもてなしや満足、観光の拠点につながると考える。

尚、British HouseにおけるWi-Fi環境は整備されていたが、Freeではなかった。携帯のWi-Fi機能をオンにしていると図のようにguest、partner、staffの三種類を受信した。（図2-12）環境の整備はされているが、セキュリティーロックがあり安易に接続することが出来なかった。昨年度より品川区は大井町駅周辺エリアでWi-Fiの整備を行い簡単な入力作業で利用することが出来る。セキュリティー面では危惧する面もあるが、ユーザーにとっては行政サービスの一つである。一方で繋がりづらいことや画像のアップに時間がかかると言う声も聞こえてくるので改善は必須である。

視察を終え宿泊ホテルへ移動（19：40～20：15）し各自夕食をとった。日中はもとより夜のまちは危険度が増すため外出は控える旨を出国前に言われていたが、夕食をとるすべがなく団体行動をとる大前提で宿泊ホテル近隣の交差点からほど近い飲食店（写真2-129）（20：30～22：00）に入った。言葉の壁はあるものの気さくな店員に助けられ注文（写真2-130）することが出来た。前述したがゲストが指差しで注文できる仕組みは、ここでも必要性があると考えられる。夕食後、明日の行程確認（22：00～23：30）をして就寝。

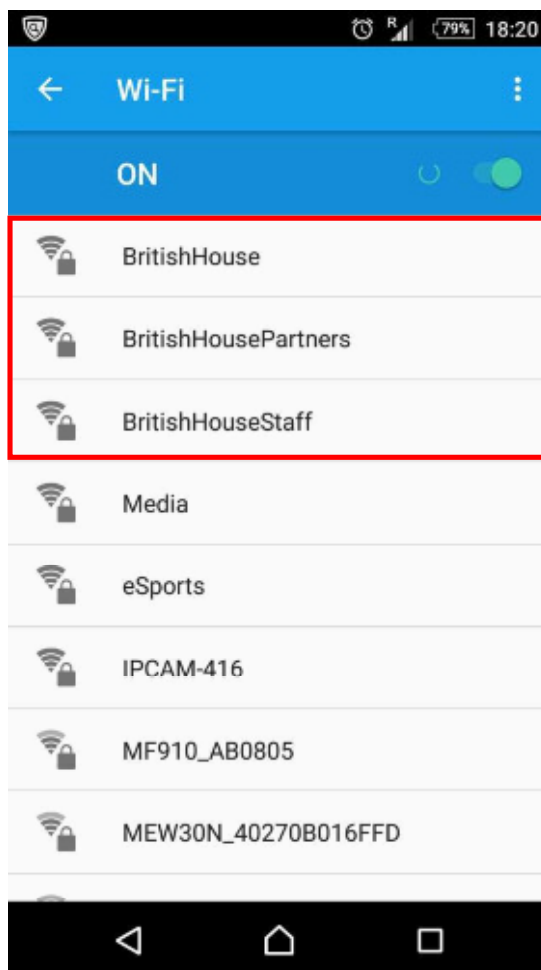


図 2-12 Wi-Fi の受信状況
携帯スクリーンショットを基に筆者作成



写真 2・129 飲食店の様子 筆者撮影



写真 2・130 メニュー 筆者撮影